

# 令和8年度 東広島市立河内小・中学校 研究構想図

## 【児童生徒の実態】

- ・個々の活躍の場を多く設定したりして、様々な取組に挑戦しやすい環境にある。
- ・小学校では年々児童数が減少している。中学校では行事、特別活動等において目標設定をすることが難しく、各活動の達成感を感じにくい現状にある。
- ・自分の意見を持ち、それを伝え合い、高め合うための基礎・基本の定着に課題がある。

## 学校教育目標

「夢と志」をもち、未来に向かって  
果敢に挑戦する児童生徒の育成

## 研究主題

豊かに伝え合う児童生徒の育成

～小中9年間の系統的な指導と協働的な学び合いで深める授業づくりを通して～

## 【研究仮説】

小中9年間の各段階において確実に定着させる事項を共有し、その達成を図りながら、「問いを創る授業」の中で協働的に学び合う時間を設定すれば、学習集団の質が相互作用的に高まり、児童生徒は学習活動において、豊かに伝え合うことができるであろう。

## 【研究内容】

- ①ビジョンシートを活用した「問いを創る授業」の実践
- ②小中9年間の系統的な「基礎・基本」定着ルーブリックの開発
- ③協働的な学び合いの全校的な推進
- ④小中同一形式での授業の振り返り

## 【河内中学校区で目指す15歳の生徒像】

- ・自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる生徒
- ・自他を尊重し、自ら考えて、よりよく行動できる生徒